

# Why Librarianship?

## 図書館情報学大学院生の進学要因とキャリア形成の国際比較

Why Librarianship? An Exploration of Factors Influencing MLIS Students  
in Choosing Library and Information Science as a Career

池内有為<sup>\*</sup>, ダナ・ドウキッチ<sup>\*\*</sup>, ジン・リウ<sup>\*\*\*</sup>, ヤン・ルー<sup>†</sup>, ヤン・シュウ<sup>‡</sup>, 盧敬之<sup>¶</sup>  
Ui IKEUCHI<sup>\*</sup>, Dana DUKIC<sup>\*\*</sup>, Jing LIU<sup>\*\*\*</sup>, Yang LU<sup>†</sup>, Yang XU<sup>‡</sup>, Patrick LO<sup>¶</sup>

<sup>\*</sup>筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、<sup>\*\*</sup>香港大学、

<sup>\*\*\*</sup>ブリティッシュコロンビア大学アジア図書館、<sup>†</sup>上海大学、<sup>‡</sup>北京大学、<sup>¶</sup>筑波大学

<sup>\*</sup>Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba,

<sup>\*\*</sup>University of Hong Kong, <sup>\*\*\*</sup>Asian Library, University of British Columbia,

<sup>†</sup>Shanghai University, <sup>‡</sup>Peking University, <sup>¶</sup>University of Tsukuba

あらまし：4か国5大学の図書館情報学修士課程の大学院生を対象として、進学に影響を与えた要因や図書館専門職を選択した理由に関する質問紙調査を実施した。全ての大学で、就職先として大学図書館の希望が最も多いことや「社会における図書館専門職への理解が低い重要な職業である」という認識が共通していた。一方、進学の参考にした情報源やキャリア選択の要因には差が見られた。

キーワード：図書館情報学修士、キャリア形成、質問紙調査、国際比較

### 1. はじめに

図書館情報学修士課程の大学院生に、進学に影響を与えた要因や図書館専門職に就こうとする理由を尋ねる調査は、主に米国でしばしば行われてきた。1989年には、ALAのOffice for Personnel Resourcesが、54大学を対象とした大規模な調査を実施している[1]。Ardらは、未来の図書館員が図書館専門職を選択する動機を明らかにすることによって、専門職開発の方法や図書館員の将来像を把握できると述べている[2]。

本研究は、新たに日本や中国、カナダなど複数の国で同様の調査を実施し、結果を相互に比較することによって、国や社会、文化による差異と共通点を明らかにすること、国内外から学生を集めるためのプログラム開発や募集計画の策定に寄与することを目的としている。

また、時代と共に図書館員の役割は変化し続けている。たとえば、学術情報のデジタル化と情報流通環境の変化によって、デジタルアーカイビングが図書館員の重要な職務の一つとなりつつある。現時点の、図書館情報学修士課程や図書館専門職に対する大学院生の認識を明らかにし、社会や時代背景とあわせて解釈したスナップショットを残したい。

### 2. 研究方法

まず、英語で質問項目を検討し、プレテストを経て最終的に35項目を作成した。

次に、各国語のWebの質問紙フォームを作成し、プレテストを行った後、2013年2月から筑波大学、上海大学、北京大学、ブリティッシュコロンビア大学（以下、カナダ）、王立図書館情報大学（以下、デンマーク。2013年4月1日よりコペンハーゲン大学と統合）の5大学の図書館情報学修士課程の大学院生を対象として本調査を開始した。調査結果では、2013年5月23日までに得られた合計222名分の有効回答を分析する。

### 3. 調査結果

#### 3.1 回答者の属性

すべての大学で女性の回答者が半数以上を占め、特にカナダは85.7%が女性であった。年齢層は29歳以下が最も多く、上海、筑波、北京では8割以上を占める。

表1：大学別回答者の属性

	筑波大学	上海大学	北京大学	カナダ	デンマーク
男性	36.4%	31.0%	41.5%	14.3%	32.1%
女性	63.6%	69.0%	58.5%	85.7%	67.9%
29歳以下	86.4%	95.2%	82.9%	64.3%	58.5%
30-39歳	11.4%	4.8%	17.1%	16.7%	28.3%
40-49歳	2.3%	0.0%	0.0%	19.0%	13.2%
合計（人）	44	42	41	42	53

進学以前の職業については、カナダ（29.3%）を除いて学生が最も多く、7～9割近くにのぼる。カナダは図書館以外の正規職員が最も多く（41.5%）、デンマーク（26.9%）、上海（12.8%）、北京（12.2%）にも同様の回答者が存在する。最終学歴は主に学士であるが、全ての大学に別の修士号をもつ回答者が存在し、カナダには博士号保持者が3名含まれていた。

#### 3.2 図書館情報学修士課程への進学要因と情報源

進学理由を23項目提示したところ、安定した図書館専門職に就きたい、転職したい、競争力をつけたいという趣旨の回答が多数選ばれた。また、図書館情報学への興味も強く示されているが、「社会的ステータスや専門職としての名声」はほとんど選ばれなかった（筑波の0%から北京の17.1%まで）。進学に影響を与えたと思われる要因16項目に対して「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」までを5件法によって尋ねた結果は、ばらつきが少なく、平均ポイントが高い順に並べると「現代社会における情報の重要性」（3.748）、「図書館専門職に役立つ個人技能」（3.568）、「人々や社会に奉仕する機会」（3.566）、「情報検索を支援すること」（3.550）であり、社会への貢献や技術の修得に対する意識が高かった。

進学を決定する際に参考になった情報源としては、修了生や教員、図書館勤務の家族などからのいわゆる「口コミ」を選ぶ回答者が多い。1981～83年のインディアナ大学の調査では図書館員からの情報が最も多かったが[3]、本調査ではおおむね少なく、カナダ26.2%、筑波11.4%、デンマーク5.7%、上海2.4%、北京0%であった。各大学のウェブサイトについては、カナダ（25名）とデンマーク（18名）では1位、筑波（26名）は2位だったものの、上海（9名）や北京（1名）ではあまり有効な情報源とみなされていない。また、各大学の広報についても同様の傾向がみられ、中国では口コミが強い影響力を持っていると解釈できる。

実際に大学院を選択する際には、「専攻とカリキュラムの評判」が重視されている。しかし、「カリキュラムが実践的（インターンシップ等）」という項目については、カナダ（54.8%）や上海（35.7%）と比較すると、筑波（9.1%）や北京（2.4%）ではほとんど重視されていない。

表2：大学院を選択する際に重視した項目（複数回答／N=有効回答者数）

	筑波大学	上海大学	北京大学	カナダ	デンマーク
1位	専攻とカリキュラム	大学のランキング	大学のランキング	専攻とカリキュラム	学部と同じ大学
2位	学費	専攻とカリキュラム	学部と同じ大学	学費	場所
3位	学部と同じ大学 教員の評判	学費	専攻とカリキュラム	場所	修了/在学中の友人
N	44	42	41	42	53

### 3.3 修了後に希望する勤務先と業務内容

修了後に就職を希望する勤務先として 21 項目を提示したところ、全ての大学で大学図書館が 1 位を占め、北京の 46.3%から、最高はデンマークの 64.0%であった。起業（情報コンサルタント等）については、北京（24.4%）が最も多く、10%前後の日本、デンマーク、カナダ、上海と差が見られた。また、筑波は出版社が 3 位であったが、他の 4 大学では 11 位以下と順位が低かった。なお、「修了後、他の学位を取得する予定」については、全ての大学で「なし」「未定」という回答が約半数以上を占めた。図書館情報学博士号の取得については、筑波 7 名、北京 4 名、上海およびカナダ各 1 名、デンマーク 0 名という結果であった。

表 3：修了後に希望する勤務先（複数回答/N=有効回答者数）

	筑波大学	上海大学	北京大学	カナダ	デンマーク
1 位	大学図書館	大学図書館	大学図書館	大学図書館	大学図書館
2 位	公共図書館	公共図書館	学校図書館	公共図書館	研究所図書館
3 位	研究所図書館	アーカイブ機関	政府図書館	美術・博物館図書館	公共図書館
4 位	出版社	学校図書館	公共図書館	研究所図書館	専門図書館(企業)
5 位	学校図書館	政府図書館	国立図書館	医学・病院図書館	美術・博物館図書館
6 位	専門図書館(企業)	美術・博物館図書館	図書館等以外	短期大学図書館	国立図書館
N	43	39	41	41	50

業務内容については、総じて貸出・ILL サービスや、目録・索引・抄録作成といった旧来の図書館業務に対する希望が少なかったが、上海、カナダ、デンマークでは「レファレンス・ガイダンス」の希望が多かった。マイノリティや高齢者、障害者サービスは全体的に順位が低い。

表 4：希望する業務内容（複数回答/N=有効回答者数）

	筑波大学	上海大学	北京大学	カナダ	デンマーク
1 位	図書館情報学研究	管理・マネージメント	管理・マネージメント	レファレンス	電子図書館開発
2 位	管理・マネージメント	アーカイブ	広報・マーケティング	収書・蔵書構築	図書館情報学研究
3 位	広報・マーケティング	レファレンス	図書館情報学研究	電子図書館開発	レファレンス
4 位	アーカイブ	広報・マーケティング	IT サービス・サポート	目録・索引作成	アーカイブ
5 位	IT サービス・サポート	収書・蔵書構築	青年・児童サービス	アーカイブ	目録・索引作成
...					
11 位	収書・蔵書構築 目録・索引作成	コンピュータ・システム 目録・索引作成	貸出・ILL サービス 目録・索引作成	貸出・ILL サービス 障害者向けサービス	青年・児童サービス
12 位	貸出・ILL サービス	マイノリティサービス	アーカイブ		貸出・ILL サービス
13 位	マイノリティサービス	貸出・ILL サービス	電子図書館開発	広報・マーケティング	マイノリティサービス
14 位	高齢者向けサービス	高齢者向けサービス	高齢者向けサービス	IT サービス・サポート	高齢者向けサービス
15 位	障害者向けサービス	障害者向けサービス	障害者向けサービス	コンピュータ・システム	障害者向けサービス
N	38	38	40	38	45

図書館専門職を選ぶ（選んだ）要因 13 項目については、情報探索や社会に対する奉仕意識に加えて、「図書館の環境や雰囲気」「書物や知識に近い」といった、知的職業としてのイメージや環境を重視する回答が多かった。この結果は、キャリア変更した図書館員を対象とした英国の先行研究とも一致している[4]。一方、「いつでも読書ができる」「変化のないお決まりの業務である」「競争の激しいビジネス界からの離脱」といった、安楽な印象を理由とする回答者は少ない。また、Van House の調査では、給料よりも図書館専門職自体の魅力やキャリ

アの将来性が重視されていたが[5]、上海と北京では進学理由と同様に、安定した職業であることが1位を占める。給料や手当に関する回答は、大学によってばらつきがあった。

表5：図書館専門職をキャリアとして選ぶ上での重要度（5件法）

	筑波大学	上海大学	北京大学	カナダ	デンマーク
1位	知的発展の場	安定した職業	安定した職業	生活費のため	知的発展の場
2位	情報探索の援助	手当(医療, 退職金)	職場環境や雰囲気	情報探索の援助	生活費のため
3位	職場環境や雰囲気	十分な給料	社会奉仕の機会	社会奉仕の機会	情報探索の援助
4位	書物や知識に近い	職場環境や雰囲気	情報探索の援助	知的発展の場	安定した職業
N	38	38	40	38	45

### 3.4 図書館専門職に対する社会の認識と将来

「自国の社会は、図書館専門職について正確で十分な認識を持っているか」という設問に対する5件法のポイントは総じて低く、全ての大学で「非常にそう思う」を選んだ回答者は一人もいなかった。特に筑波では「全くそう思わない」を選んだ回答者が最も多く、日本において図書館員・司書の専門性に対する社会的な認知度が低いと感じていることが示された。対照的に、「将来的に、私たちの社会にとって図書館専門職はどの程度重要か」という設問に対しては、「非常に重要である」「重要である」という回答が多数を占めた。

具体的に、将来の図書館の現場で重要だと思われる点については、「情報技術とコミュニケーション」、「利用者・サービス志向」が5大学で一致している（1位と2位）。一方、3位以下の点については大学による差がある。たとえば、「学術研究」は、カナダ（4位）とデンマーク（3位）では重視されているが、筑波や北京（7位）、上海（6位）では、あまり重きをおかれていない。

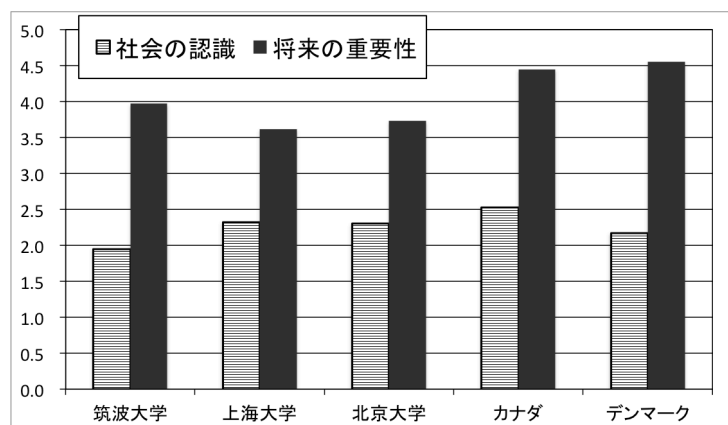


図1：図書館専門職に対する社会の認識と将来の重要性

### 謝辞

本研究は、筑波大学国際交流費支援の助成を受けて実施した。また、調査にご協力いただいた方々に、この場を借りて深く謝意を表したい。

### 参考文献

- [1] McCook, Kathleen de la Pena; Heim, Kathleen, M.; Moen, William E. Occupational Entry: Library and Information Science Students' Attitudes, Demographics and Aspirations Survey. American Library Association, 1989, 210p.
- [2] Ard, Allyson. et al. Why library and information science? the results of a career survey of MLIS students along with implications for reference librarians and recruitment. Reference & User Quarterly. 2006. Vol. 45, No. 3, p.236-248.
- [3] Dewey, Barbara I. Selection of librarianship as a career: implications for recruitment. Journal of Education for Library and Information Science. 1985, Vol. 26, No. 1, p.16-24.
- [4] Deeming, Clarire; Chelin, Jacqueline. Make your own luck: a study of people changing career into librarianship. New Library World. 2001, Vol. 102, Iss. 1/2, p.13-26.
- [5] Van House, Nancy A. MLIS students' choice of a library career. Library and Information Science Research. 1988. Vol. 10, p.157-176.